

# 令和3年度教育事業 「子ども地球探検隊」

- 1 趣 旨 花山青少年自然の家と栗駒山麓、三陸、ゆざわの3つのジオパークの豊かな自然のもと、自然体験活動や見学等を通じて、自然の雄大さを感じ取り、自然の仕組みについて理解を深めるとともに、その保護や活用について考え、地域に根ざした環境教育の推進を図る。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
- 3 共 催 栗駒山麓ジオパーク推進協議会
- 4 後 援 宮城県教育委員会、栗原市教育委員会
- 5 協 力 三陸ジオパーク気仙沼推進協議会、湯沢市ジオパーク推進協議会

## 6 事業の概要

(1) 令和3年7月22日(木)～25日(日)【3泊4日】

(2) 参加者

①参加対象 宮城・岩手県内の小学校4年生から6年生 24名程度

②参加状況 参加総数23名(応募者数74名)

7 場 所 国立花山青少年自然の家 及び 栗駒山麓ジオパーク  
宮城県志津川自然の家 及び 三陸ジオパーク、ゆざわジオパーク

8 講 師 東北公益文科大学公益学部 准教授 新名 阿津子 氏  
栗駒山麓ジオパーク推進協議会 専門員 田中 誠也 氏  
三陸ジオパーク気仙沼推進協議会 運営委員長 豊田 康裕 氏  
ゆざわジオパーク推進協議会 専門員 伊藤 健太郎 氏

## 9 企画・運営のポイント

「風土(地形、地質、気候)と食べ物(塩、米、水)の関係を解き明かしながら、地球とわたしたちの暮らしを考えるプログラム」というテーマで、地球の変動や働きが自分たちの暮らしと、どのように結びついているか、プログラム全体を通して体験的に学べるように企画した。

三陸、栗駒山麓、ゆざわの3つのジオパークを巡り、各地の風土に即した体験活動をしていく中で、海の恵み(塩)、大地の恵み(米)、山の恵み(水)の3つのアイテムを、課題解決することで手に入れることができるという設定にした。また、1日目～3日目に手に入れた塩、米、水の材料を、最終日におにぎりにするという大きな目的をもたせることで、自分たちを取り巻く環境や様々な事象のつながりを実感してほしいと考えた。

4日間を貫くストーリーの中で、見直しをもつ、体験する、振り返るという学習サイクルを経ながら、ジオマップ(学習シート)にまとめることで地球と自分たちの暮らしについて考えられるよう運営する。

## 10 日 程

7/22 (木)	三陸ジオパーク(岩井崎周辺)で海岸散策や塩づくり体験を行いながら、自然の雄大さ、自然の恵みについての学習活動を行う。宿泊先の志津川自然の家では、ボランティアの企画によるアイスブレイクの活動を行う。
7/23 (金)	志津川周辺の震災遺構(南三陸町旧防災庁舎跡)の見学を行う。バスで移動後、栗駒山麓ジオパークでは、荒砥沢地滑りや田んぼ(稲作農家)の見学を通して、今ある自然がどのように形成されていたのか、また、自然の恵みを生かして人々がどのようにくらししてきたのかを学習する。
7/24 (土)	ゆざわジオパークのサイト(田代沼～三本杉に通じる広葉樹林、栗駒神水、小安峡大噴湯)の見学を通して、広葉樹林や地熱が人々の暮らしにどのように役立っているのかを考える学習活動を行う。また、地熱を利用して低温殺菌をしている栗駒フーズの乳製品工場の見学をする。
7/25 (日)	3つの自然の恵み(塩、米、水)を利用して、昼食のおにぎりを野外炊事で作る。花山の沢活動を通して、自然に親しみ、流れる水のはたらきや大地のつくりについて学び、4日間のまとめとする。班ごとにジオマップ(学習のまとめ)をもとに学習について振り返りの活動を行う。

## 11 活動の内容について

【7月22日(木) 1日目】「三陸ジオパーク(岩井崎周辺の海岸、塩づくり体験館)、志津川自然の家」



【7月23日(金) 2日目】「栗駒山麓ジオパークビジターセンター、荒砥沢地滑り、一迫金田地区水田の見学」



【7月24日(土) 3日目】「ゆざわジオパーク(田代沼～三本杉、栗駒神水、小安大噴湯)の見学」



【7月25日(日) 4日目】「野外炊事、砥沢下流部での沢活動、ふりかえりの活動」



## 12 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果(1名未回収のため22名で集計)

満足: 82% やや満足: 18% やや不満: 0% 不満: 0%

(2) 参加者の声

- ・いろいろな体験を通して、いつも以上にごみを拾おうと思い、地球は変化していることがよく分かりました。
- ・探検隊では、たくさんの場所に行き、米のできるまでや地震の被害などたくさんのことを学ぶことができた。
- ・地震や洪水などの災害で地形が変わってしまうことなど、自然のことについてくわしく分かった。
- ・栗駒神水はとても冷たく、甘かったです。自分で体験してみて食べ物を作るのはとても大変だと知りました。
- ・今回の体験を通して今の地球、自分の住んでいるところなどができていることに気づき、今生活できている。

(3) 成果

- ・4日間を貫くストーリーの中で、見通しをもつ、体験する、振り返るという学習サイクルを経ながら、ジオマップ(学習シート)にまとめることで、参加者は地球と自分たちの暮らしについて考えることができた。また、自分が住んでいる地域と比較したり、今回の活動から新たな課題を見つけたりしている子もいた。
- ・東北公益大学の新名氏、栗駒山麓ジオパーク専門員の田中氏に4日間帯同していただいた。各場面で専門的な内容を分かりやすく説明をしたり、全体をつなげたりしていただいたことにより、学習の深まりが見られた。
- ・学生ボランティアを班担当やフリー担当に分担して割り当てることで参加者への対応が細やかにできた。

(4) 課題

- ・3泊4日で多くの体験や学習を入れたため、参加者は多くのことを学べた反面、講師と学生ボランティアなど、スタッフ間で情報共有する時間が少なかった。活動内容を精選し、余裕をもった事業計画が必要がある。

担当: 企画指導専門職 村山 浩康